

病防第43号
令和3年8月27日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記

令和3年度病害虫発生予察注意報第5号
(トマト灰色かび病)

令和3年度病害虫発生予察注意報第5号

令和3年8月27日
岐 阜 県

作物名 トマト (夏秋型栽培)
病害虫名 トマト灰色かび病 (*Botrytis cinerea*)

- 1 発生地域 中濃、東濃及び飛騨地域
- 2 発生時期 8月下旬以降
- 3 発生程度 多い
- 4 予報の根拠

- (1) 8月上旬以降、葉先枯れや花がらなどの枯死部に本病による胞子の形成が多数認められる。
- (2) 8月下旬の巡回調査では、各地域の平均発病株率は68.0~73.4%と高く、ゴーストスポット^注)を含む平均発病果率は5.5~14.1%と8月上旬調査時と比べ増加している(表)。

注) 灰色かび病菌の胞子が果実表面に付着し生じる黄白色円形の中心点がある小斑点のこと。

- (3) 8月当初から降雨日が多く、日照時間の少ない期間があったため、本病の発生に好適な条件が継続しており、曇雨天が続くと病害の発生量がさらに増加することが懸念される。

5 防除上の注意事項

- (1) 発病した部位(果実や葉、花がらや葉先枯れ)は伝染源となるため早急に取り除き、

ほ場外へ持ち出し処分する。

- (2) 果実に付着している花がらや葉先枯れは、感染源となるため見つけ次第除去する。
- (3) 20℃前後の気温と90%以上の高湿度が続くと蔓延するため、わき芽かき等を適切に行い、通風をよくする。
- (4) 着色促進のためサイドビニール被覆を行うと、風通しが悪くなり、ハウス内の湿度が上がり本病の発生が助長されるため、管理には十分注意する。
- (5) 葉かび病やすすかび病などの多発により葉が枯死すると本病の発生源となるため、これらの病害についても適切に防除する。
- (6) 県内夏秋産地では、QoI剤やSDHI剤に対する耐性菌の発生が報告されているため、薬剤防除にあたっては、同一系統薬剤の連用は避け、系統の異なる薬剤でのローテーション防除に努める。
- (7) 農薬は、最新の登録情報 (<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム) を参照し、適正に使用する。

表 令和3年度トマト灰色かび病発生状況調査結果

調査地点	8月上旬					8月下旬			
	発病株率 (%)	発病果率 (%)			発病株率 (%)	発病果率 (%)			
		計	腐敗果	ゴーストスポット果		計	腐敗果	ゴーストスポット果	
中濃地域	郡上市	—	—	—	—	56.0	3.8	1.6	2.2
	白川町	32.0	2.8	0	2.8	80.0	15.3	1.1	14.2
	平均	32.0	2.8	0	2.8	68.0	9.6	1.4	8.2
東濃地域	中津川市①	—	—	—	—	100.0	7.7	3.2	4.5
	中津川市②	—	—	—	—	4.0	0.2	0.2	0
	恵那市	24.0	3.5	0.7	2.8	100.0	8.5	0.3	8.2
	平均	24.0	3.5	0.7	2.8	68.0	5.5	1.2	4.2
飛騨地域	高山市①	0	0	0	0	22.8	1.3	1.3	0
	高山市②	21.3	0.9	0	0.9	44.0	4.3	2.3	2.0
	高山市③	—	—	—	—	100.0	18.2	4.2	14.0
	下呂市①	28.0	0	0	0	100.0	18.1	10.2	7.9
	下呂市②	—	—	—	—	100.0	28.5	3.4	25.1
	平均	16.4	0.3	0	0.3	73.4	14.1	4.3	9.8
県平均	21.1 (34.3)	1.4 (6.3)	0.1 (0.6)	1.3 (5.8)	70.7 (39.8)	10.6 (10.4)	2.8 (0.6)	7.8 (9.8)	

注) ピンポン球大の果実を調査

発病果計は腐敗果とゴーストスポット果の合計値

端数処理のため、計が合わないことがある

() 内は平年値を示す